

「言語聴覚士と特別支援学級担当教員における児童の指導・支援を検討する際の視点の相違：
ビネット調査による検討」に関する説明書

研究責任者：

国際医療福祉大学大学院

特任教授 畦上恭彦

研究実施者：

博士課程2年 佐々木ゆり

この説明書は「言語聴覚士と特別支援学級担当教員における児童の指導・支援を検討する際の視点の相違：ビネット調査による検討」の内容について説明したものです。本研究は、国際医療福祉大学の承認（承認番号：25-TA-187）を得て行なうものです。本研究に参加されなくても不利益を受けることは一切ありません。ご理解、ご賛同いただける場合は、研究にご参加くださいますようお願い申し上げます。

① 研究の名称及び当該研究の実施について研究機関の長の許可を受けている旨

研究の名称は、「言語聴覚士と特別支援学級担当教員における児童の指導・支援を検討する際の視点の相違：ビネット調査による検討」です。国際医療福祉大学倫理審査委員会の審査を受け、承認を得て行っています。

② 当該研究対象者に係る研究協力機関の名称、既存試料・情報の提供のみを行う者の氏名及び所属する機関の名称並びに全ての研究責任者の氏名及び研究機関の名称

研究機関は、国際医療福祉大学大学院です。研究責任者は、同大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 言語聴覚分野 特任教授の畦上恭彦です。研究実施者は、同大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程2年の佐々木ゆりです。

③ 研究の目的及び意義

近年、特別支援学級に在籍する児童が全国的に増加しており、言語聴覚士（以下、ST）が小学校を訪問して、小学校特別支援学級を担当する教員（以下、支援学級教員）とともに、言語・コミュニケーション障害を持つ児童を支援する機会が増えています。学校で働くSTは、その専門性を活かして児童を支援することが期待されており、児童の指導・支援（合理的配慮を含む）を検討する際の情報把握は重要な業務の一つとなっています。STが教員と共通の目標を持って児童を支援するためには、教員が児童の指導・支援を検討する際の視点を理解した上で、STとしての専門性を考えることが必要ですが、現在、国内ではSTと教員の視点の相違については十分に調査されていません。本研究は、STと支援学級教員が児童の指導・支援を検討する際の視点の相違を把握することを目的としています。研究の結果、それぞれの職種の役割の明確化や子どもの適切な支援、さらに支援学級教員とのより良い連携体制の構築に貢献することを目指しています。

④ 研究の方法（研究対象者から取得された試料・情報の利用目的を含む。）及び研究期間

研究方法は、無記名の自記式質問紙調査です。本研究で調査協力をお願いするのは、2025年度に小学校特別支援学級に在籍する児童を指導・支援しているSTと支援学級教員の方です。STと支援学級教員が児童の指導・支援を検討する際の視点の相違を、同じ条件下で比較するためにビネット調査の手法を用います。ビネット調査とは、

短いストーリーを提示して回答を求め、回答者の考え方を把握・解析する調査法です。今回は、特別支援学級に在籍する児童を想定した2事例を読んで回答していただきます。調査の設計上、特別支援学級の障害種や児童の性別については記載されていません。

調査票では、特別支援学級に在籍する小学生の模擬事例について指導・支援を検討する際に、STの方が調査項目をどの程度重視されるかなどを尋ね、ご回答いただきます。調査に要する時間は15分程度です(個人差があります)。調査票には、説明文書を添付した上で、本研究の同意確認欄を設け、「同意します」へのチェックをもって、同意を得ます。回答期間は、2026年1月25日から2月28日までの約1カ月です。

⑤ 研究対象者として選定された理由

本研究は、小学校特別支援学級に在籍する児童の模擬事例を用いた調査であるため、2025 年度に小学校特別支援学級に在籍する児童を指導・支援している ST の方と支援学級教員の方にご協力をお願いしています。医療機関・放課後等デイサービス事業所・フリーランス等で児童を定期的に指導・支援している方、教育委員会の巡回相談や保育所等訪問支援等で学校を訪問して児童を支援している方など、どのような枠組みで児童を指導・支援していても差し支えありません。

⑥ 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

調査票には個人が特定される項目は含まれず、対象者の方の負担及びリスクはほぼないものと思われます。万が一、調査票に回答する際に、疲労や過度の緊張を感じた際には、速やかに調査を中止してください。

⑦ 研究が実施又は継続されることに同意した場合であっても随時これを撤回できる旨(研究対象者等からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があるときは、その旨及びその理由)

本研究の調査票への回答で得られる情報には、個人を特定できる内容を含まないため、研究実施者へ調査票が返送されて以降は、研究対象者を特定することができません。そのため、同意撤回は調査票返送までの間とさせていただきます、その際には調査票を回収いたしません。

⑧ 研究が実施又は継続されることに同意しないこと又は同意を撤回することによって研究対象者等が不利益な取扱いを受けない旨

本研究への参加に同意されなくても、研究対象者の方が不利益を受けることは一切ありません。

⑨ 研究に関する情報公開の方法

本研究の結果は、博士論文を作成する他、関連学会や学術雑誌での公表を予定しています。

⑩ 研究計画書及び研究方法に関する資料を入手又は閲覧できる旨

本研究の研究計画書や研究方法の閲覧を希望される場合は、研究実施者(佐々木ゆり)までご連絡ください。

⑪ 個人情報等の取扱い

ご回答いただいた調査票は研究実施者へ返送後、返送元と完全に分離するため、個人が特定されることはありません。本調査によって得られた情報は厳重に管理し、研究倫理に基づいて適切に取り扱います。調査票には氏名・ご勤務先等の個人や所属が特定される情報は記入いたしません。

調査票を郵送するために収集した個人情報(お名前、ご勤務先又はご自宅の住所、メールアドレス)は、インターネットに接続しない状態のパソコン内のファイルへ入力して管理いたします。ファイルは暗号化したフォルダで、パスワードを定めて厳重に管理し、調査票の発送後、データを完全に削除いたします。

⑫ 試料・情報の保管及び廃棄の方法

調査票へのご回答は、インターネットに接続しない状態のパソコンのファイルへデータ入力した後、研究責任者の管理下で施錠して保管します。ファイルは、暗号化したフォルダで、パスワードを定めて厳重に管理します。調査票やデータは、研究終了後10年間保存した後、完全に削除いたします。

⑬ 研究の資金源等、研究に係る利益相反に関する状況

本研究において利益相反はありません。

⑭ 研究により得られた結果等の取扱い

本研究の結果は、博士論文を作成する他、関連学会や学術雑誌での公表を予定しています。また、今後実施予定のSTの方を対象としたインタビュー調査において、本研究の結果を使用する可能性があります。

⑮ 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応

本研究について、ご質問やご不明な点がございましたら、研究実施者（佐々木ゆり）までご連絡ください。

⑯ 研究対象者から取得された試料・情報について、将来の研究のために用いられる可能性

今後、第2研究として、特別支援学級で児童を指導・支援しているSTの方を対象としたインタビュー調査を計画しています。第2研究の実施にあたり、本研究で得られたデータの使用が決定した際には、本大学院倫理審査委員会へ報告し、倫理審査承認後に使用致します。また、本研究の結果は、統計的に処理された状態で使用するため個人が特定されることはありません。調査票には、本研究の結果を第2研究へ使用することについての同意確認欄を設け、「同意します」へのチェックをもって同意を得ます。

<お問い合わせ等の連絡先>

研究実施者：

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科
保健医療学専攻 言語聴覚分野 博士課程 2 年
佐々木ゆり
E-mail: 24s3031@giuhw.ac.jp

研究責任者：

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科
保健医療学専攻 言語聴覚分野
特任教授 畦上恭彦
電話：0287-24-3178
E-mail: yasuhiko@ihwg.jp
住所：栃木県大田原市北金丸 2600-1